

報告：東京都剣道連盟創立 70 周年記念 令和 3 年度東京都青年剣道大会
令和 3 年 9 月 5 日（日） 於 東京武道館

【女子の部】

○出場選手・監督（カッコ内は所属団体）

先鋒：田村 祥子（仲六少年剣友会）

中堅：吉岡 夕希（大森剣友会）

大将：渡邊 彩（高砂香料）

監督：松本 卓也（矢口剣志会）：報告者

○結果 3 位入賞

1 回戦：大田区 2 (3) -0 (1) 府中市

2 回戦：大田区 2 (3) -0 (1) 杉並区

準決勝：大田区 0 (0) -2 (2) 足立区

○報告

新型コロナウイルス感染拡大に伴い昨年度は中止となった本大会。今年は関係各位のご尽力により 2 年ぶりに開催され、東京都の各市区群の代表 15 チームが、11 月に実施される全国青年大会の切符をかけて覇を争った。

大田区女子は 4 年ぶりの東京都制覇&全国出場に向け、緊急事態宣言が発令され稽古の機会に恵まれない中でも、時間をつくり稽古に励んできた。

1 回戦は府中市と対戦。

先鋒・田村は東京都 4 連覇時に主に先鋒で活躍。本大会ではチームの牽引役を担うが、初戦は久しぶりの試合で緊張もあったか、有効打を奪えず引き分けに終わる。

中堅・吉岡は、序盤相手に流れを奪われ、手元が浮いたところにコテを献上。これで火が付いたのか、その後は持ち味の強い攻めを繰り広げ、相手が不用意に間を詰めたところをメン、そして相手を引き出しての出ゴテと二本取り返し勝利。

大将・渡邊は引き分ければ勝ちであったが、守ることなく攻めに転じ、相手の手元を浮かせてコテを先取。その後も臆することなく攻め続け、一本勝ちで試合を締めた。

2回戦の相手は杉並区。

先鋒・田村は、初戦と比べると動きがよく、自身のペースで試合を進めるも、決め手に欠けて引き分け。

中堅・吉岡は初戦の勢いを維持し、中盤メンに乗って一本勝ち。

1回戦と同じくリードした状況で大将戦を迎えた渡邊、落ち着いた試合運びを進めながらも攻め手を緩めず、相手が下がったところにメンの連続打ちを決めて一本勝ち。

2回戦も 2-0 で快勝した。

準決勝では足立区と対戦。

先手を取りたい先鋒・田村は気迫溢れる攻めで果敢に打ち込むものの、相手も打ち負けず双方有効打突なしの引き分け。

中堅・吉岡は終始攻勢であったものの、手の内を知られている相手ということもあるのか一本取り切れず、逆に打ち終わりの居つきを狙われメンを奪われる。その後も惜しい技が続いたが時間切れで一本負け。

取り返すしかない大将・渡邊は、地力のある相手に臆することなく戦い互角以上の勝負を展開。しかし試合中盤、交錯し倒れたところに引きゴテを喰らい先取される。必死で取り返しにいくも相手の守りも固く、結果 0-2 での敗戦となった。

3位入賞ではあるものの、目標の優勝には届かず、選手はこの結果に満足はしていませんでした。しかし、久しぶりの試合で難しいコンディションにも関わらず、全体的によく動けており、チームワークを発揮し勝ち上がったことはよい経験になったと思えます。どのチームもコロナ禍においては練習機会が確保しにくいと聞いておりますが、大田区では諸先生方のご厚意により毎週練習場所を提供していただけたことが実になったと思っており、改めて感謝いたします。各人が本日直面した課題に向き合い稽古に精進し、来たる諸大会で大田区の名を再び轟かすことを期待しております。